女子７８ｋｇ超級

準決勝戦第１試合
初小貫　紗綾子　　払腰　　○　３新田　沙也加
（松前柔道クラブ）　　（日本エースサポート）

最小エントリー（１１名）となった女子７８ｋｇ超級は、第１シード小貫は昨年のチャンピオン石山（丸順）の欠場により労せずして準決勝戦に進出。対して新田は２回戦で女子シニア強化選手の白石（フォーリーフジャパン）を降す殊勲を上げての準決勝戦。
試合は開始２３秒、新田の左払腰一本であっけなく決す。

準決勝戦第２試合
３立山　真衣　　○　大外刈　　３野村　紗矢香
（フォーリーフジャパン）　　（かなや接骨院）

第２シード昨年準優勝の立山は難なく準決勝戦に勝ち上がり、一方、ミュンヘンオリンピック軽中量級ゴールドメダリスト野村豊和氏愛嬢の野村は寝技で２試合を一本勝し準決勝戦に。
試合は、両者、右組み同士。両者足技を出して攻める中、開始４２秒、立山の大外刈に野村が背中から落ち一本。立山は３年連続決勝戦進出となる。

▽決勝戦
３新田　沙也加　　（大内刈）　　⊖　３立山　真衣
（日本エースサポート）　　（フォーリーフジャパン）

新田左組み、立山右組み。前半は体格に優る新田が体重を利した内股、払腰で積極的に攻め、技の出ない立山に２分３９秒、指導１が与えられる。立山はこれに奮起し以後は積極策に転じる。一方の新田はスタミナが尽きたか、技を仕掛けて前に倒れ込む場面が目立つようになる。
攻める立山は３分４７秒、送足払と小外刈の外からの足技で新田を追い込み、新田が外からの足技に注意を払うところを逆に大内刈で刈り込めば新田は後方に倒れ技ありとなる。その後は両者に目立った攻防なく時間。立山は２年ぶり２度目の優勝。